第108回　愛知学院大学モーニング・セミナー

シリア内戦と「イスラム国」

～「対テロ戦争」が破綻しつつも持続する理由～

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
黒木 英充

シリア北部ラッカにおけるイスラム国パレード2014/06/30
http://uk.reuters.com/article/2014/07/03/uk-syria-crisis-state-insight-idUKKBN0F81D220140703

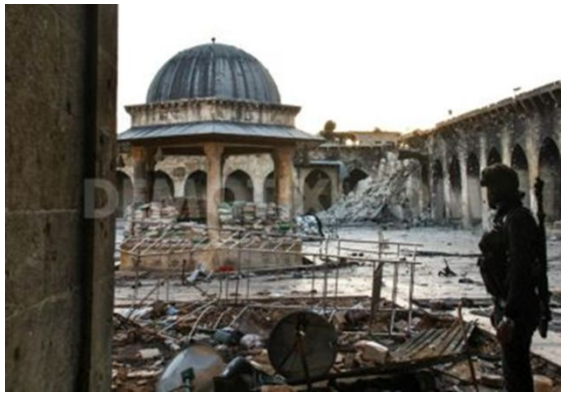
「私はシャルリ」北京でのシャルリ・エブド追悼集会2015/01/09
WANG ZHAO/AFP/Getty Images

2015年3月10日

1.　シリア内戦 ー 急速な変異と多層構造
2. 「イスラム国」以後の展開 – 十字軍という亡霊の復活
3. 「対テロ戦争」の袋小路　–本当の「文明の衝突」に至らないために

https://www.facebook.com/photo.php?fbid=674312459293945&set=a.480200765371783.107575.459668177425042&type=1&relevant_count=1

Sauvaget, *Alep*, 1941.



アレッポのウマイヤ・モスクのミナレット
（1090年築）2013年4月24日破壊

1. シリア内戦 ― 急速な変異と多層構造

2011年 3月　南部の都市ダラアで治安当局への抗議運動
7月　離反兵中心の「自由シリア軍」結成　→　事実上の内戦化
8月　オバマ大統領「アサドは辞めるべし」発言
10月　ホムスの市街戦激化

2012年 6月　アサド大統領、戦争宣言
アレッポ市街戦激化
ジュネーブ会議 --米・西欧・ロシアによる移行政府枠組み合意
7月　ダマスクス中心部で政府高官3人暗殺
8月　反体制派側にジハード主義者目立ち始める
オバマ大統領「化学兵器レッドライン」発言
2013年 3月　アレッポ方面で化学兵器使用疑惑
6月　中部の要衝クサイルを政府軍が奪還
8月　ダマスクス郊外で化学兵器事件
9月　ジュネーブ米ロ外相会談により軍事介入回避、化学兵器廃棄合意
12月　自由シリア軍司令官、ISISに攻撃されトルコに脱出
トルコの国境管理の緩さが国際メディアで問題に

2014年 1月　ジュネーブ2会議、シリア政権参加・イラン排除
イラク中部をISISが掌握
6月　シリア大統領選挙、バッシャール・アサド「再選」
ISIS、イラク北部の主要都市モースルを占領→カリフ制宣言(IS)
9月　米軍等によるイラク、シリアのIS支配地域爆撃
11月　イラク政府側支配地域におけるシーア派民兵によるスンニー派攻撃

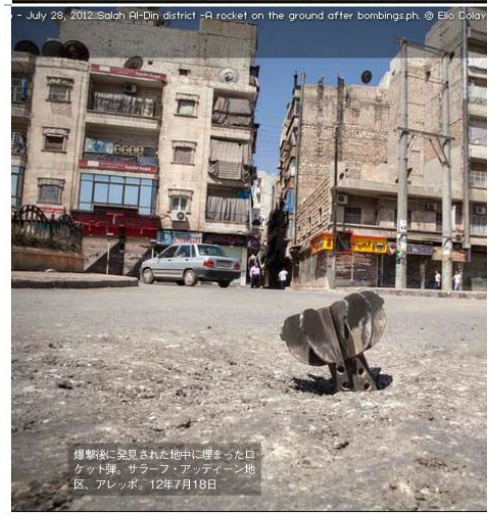
2015年 1-2月　パリにおけるシャルリ・エブド社襲撃事件/日本人人質殺害事件

「独裁政権」への攻勢と対応をめぐる駆け引き

米ロ等介入激化と宗派紛争化

シリア国外への拡散
イラクとの直結
日本も巻き込まれ

縛られたまま殺害され、放置された政府側民兵。サラーフ・アッディーン地区、アレッポ。12年7月28日



爆撃後に発見された地中に埋まったロケット弾。サラーフ・アッディーン地区、アレッポ。12年7月18日

シリア政府軍の爆撃中に避難する女性たち。アレッポ。12年7月28日

計り知れない煽動の代償

17か月の流血が続くシリアで、底知れぬ暗闇が口をあけている。

発端となったヨルダン国境の町ダラアで始まったデモ、それはチュニジアの革命の発火点と酷似していた。小中学生の落書きに拷問をもって報いた治安機関。以後、その責任者の不正追及を求める声は苛烈な鎮圧のたびに先鋭化、すぐに政権打倒の声に変わった。動乱は各地に拡大、弾圧のたびに死者が増え、政権への反感がますます高まり、デモが頻発するというスパイラルが生じた。アサド政権は初動で決定的な過ちを犯した。

一方、当初から別の不穏な動きがあった。デモに紛れこむ機関銃所持者。パトロール中の治安部隊への狙撃。さらには、政府側内通者と疑われた者への私刑、アラウィー派やキリスト教徒への憎悪をあおるシュプレヒコール。シリアの国と人々が独立以前から約100年にわたって抱え込み、覆い隠し、ある程度は克服したつもりだった宗派問題に、各方面から手が伸び、こじ開けられた。

サウジアラビアはカタルとのライバル関係を棚上げし、シリアに反イランのスンニー派政権を樹立するべく、一致してメディアも総動員で資金や武器を注ぎ込む。自国や隣国（バハレーン）の民主化要求運動は武力で鎮圧しつつ、である。トルコはイスラーム世界の新たな盟主たらんとの自負と、クルド人の多い南東部でシリアと接する地政学的条件から、従来の親アサド政権姿勢を180度転換、在外シリア人反体制派の寄合組織「シリア国民会議」の結成をサポートし、南東部で反体制派に軍事訓練を施す。中東を覆い尽くすスンニー派・シーア派対立を内部に抱えるレバノンでは、スンニー派勢力が民兵・資金・武器のシリアへの流通を確保し、アサド支持を変えないヒズブッラーとの緊張を激化させる。「アルカーイダ」的組織も対アサド政権ジハードのために世界各地から続々と流入する。

EUは、最近まで開明的指導者と称賛していたバッシャール・アサドの中に、突如残虐な独裁者の顔を見出し、反体制派を「民主化」の一環として応援。アメリカもこれに乗り遅れまいと合流、軍事情報や資金を提供する一方、国連決議から自由な「有志連合」の軍事介入を検討する。

ロシア、中国は国連安保理で拒否権行使によりシリア政府を守っているが、それはコーカサスや新疆（しんきょう）で深刻な民族問題を抱える両国が、武力を伴う反政府運動を前にすれば徹底的に鎮圧せざるを得ない、という点でシリアと同じだからだ。イランのアサド政権支援の理由は言うまでもない。

内戦となった今、シリア国内の非暴力の民主化運動組織は消し飛んでしまった。「自由シリア軍」は無統率でバラバラの民兵が掲げる看板にすぎず、同じくバラバラな在外シリア人組織との間に深い溝がある。アサド政権が倒れたとしても、その後の海図がまったく描けないのだ。

今、私たちは中東の中心部に新たな破綻国家が出現するのを目の当たりにしている。

身勝手な煽動と無為無策の代償がどれほど大きなものになるか、予想もつかない。

くろき・ひでみつ
1961年生まれ。東アラブ地域研究者、歴史学者。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授。

内戦となった今、シリア国内の非暴

DAYS JAPAN 2012年8月号
「シリア内戦の悪循環と外部の介入」
写真 エリオ・コラヴォルペ 文 黒木英充

シリア政府軍の空爆後。ケガをした少女を助ける男性。2014年1月7日

シリア政府軍による激しい爆撃で破壊された場所から、担架で運ばれる少年。2013年12月26日

大人たちの身勝手で増え続ける犠牲者

シリア南部国境の町ダラアで最初の街頭抗議運動が始まってから、ほぼ3年が経つ。内戦の泥沼化により、国外の難民は230万人、国内避難民は数百万人、死者は13万人を数えたというが、その正確な数字は誰にもわからない。虫食い状に広がる戦闘地域では、

スンニー派の湾岸諸国はイランの影響力を弱めるための好機として、西側諸国とともに反体制派にカネと武器を投入し、トルコは早々とリビア型体制転覆を見越して兵站を担う通路となった。エジプトのモルスィー政権も若者のシリアへの渡航参戦を支持してこの隊列に加わった。

一方、シリア体制側にはイラン、ロシアが回り、レバノンのヒズボラが

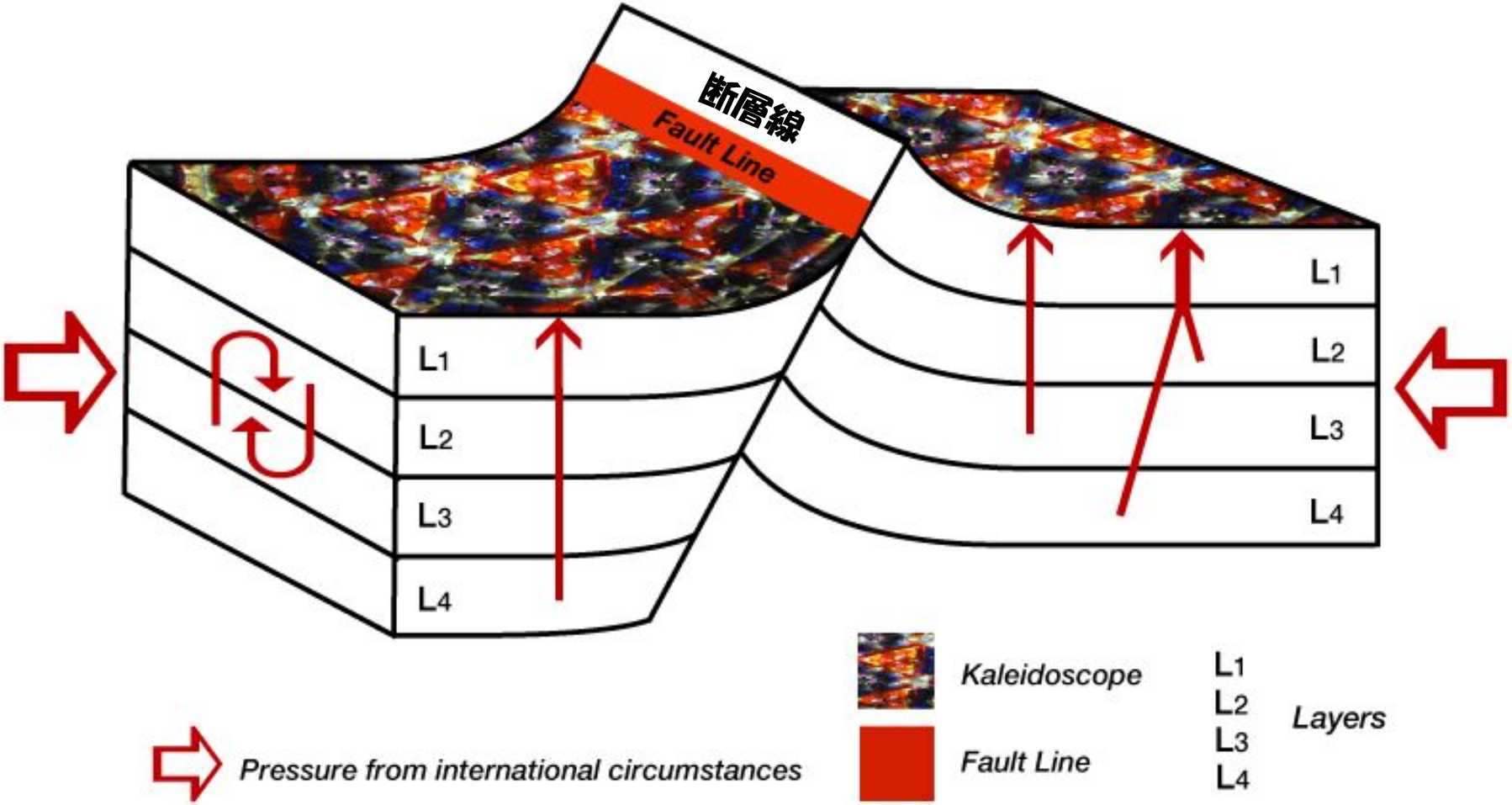
敵、……

反体制派もそれを支援する国々も、アサド後の移行政府のあり方を議論の出発点とするところに、シリアで地獄を見て耐え忍んでいる人々のことを真剣に考えていないことが表れている。政府側・反体制側双方の攻撃に苦しむ人々、すなわちサイレント・マジョリティが真っ先に求めているのは即時停戦である。まずこれを最優先議題にしなければならない。

もちろんこの大混乱を前にそれは至難である。しかし全関係国がメンツを捨ててこれに真摯に取り組まない限り、内戦はいつまでも続く。ずるずると時間が経過するうちに、スンニー派対シーア派（＋キリスト教徒）という宗派対立の嵐は、中東の中心部シリアから、すでに飛び火している隣国イラク、レバノンを越えて劇的に拡大するであろう。あなどってはいけない。今、私たちはシリアで苦しむ人々の中にその恐るべき深淵を見ているのだ。

DAYS JAPAN 2014年2月号 「シリア内戦　子どもたちに降り積もる灰と憎悪」
写真　バッサーム・ハビーエ　　文　黒木英充

Sectarian Kaleidoscope 宗派主義の万華鏡



「多層」をどのように設定するか・・・・一例として

層1. テロリズム言説対タクフィール（不信仰者宣告）言説

層2. 中東域内諸国（サウジ、トルコ、イランなど）の主導権争い

層3. NATO諸国対ロシア

層4. 対イスラエル関係

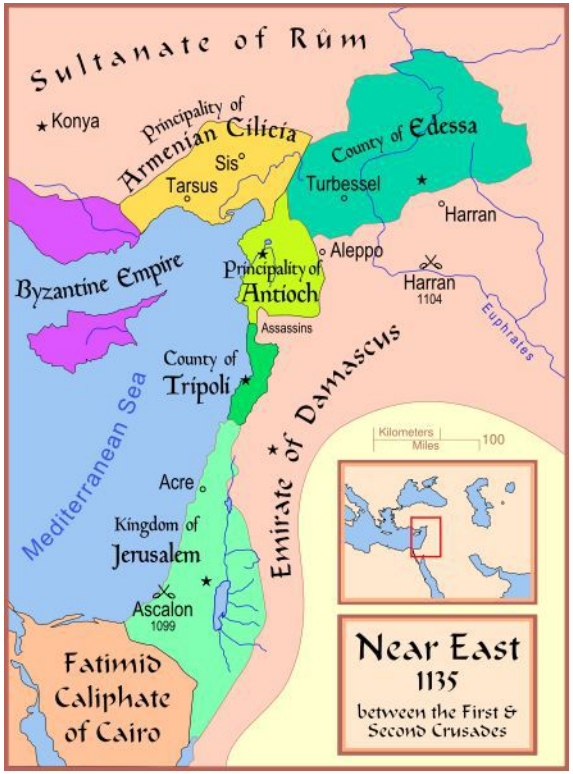
層5. 武器の闇市場と資金・人員の流通

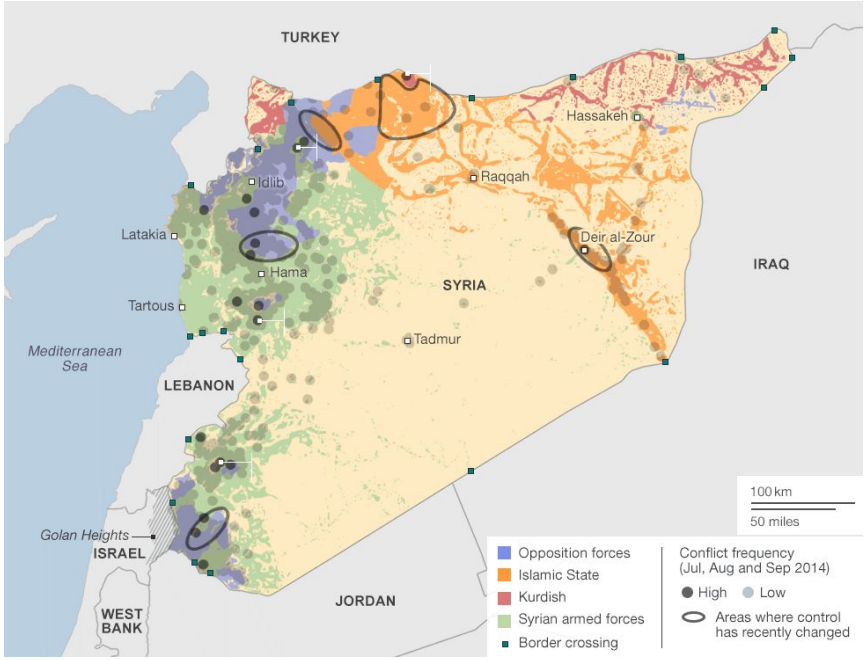
層6. 難民問題

層7. 移民・在外民と国内民の関係
層7. 独裁体制に対する民主化運動

層8. 人口問題も含めた都市対農村、利権構造

2.「イスラム国」以後の展開 – 十字軍という亡霊の復活



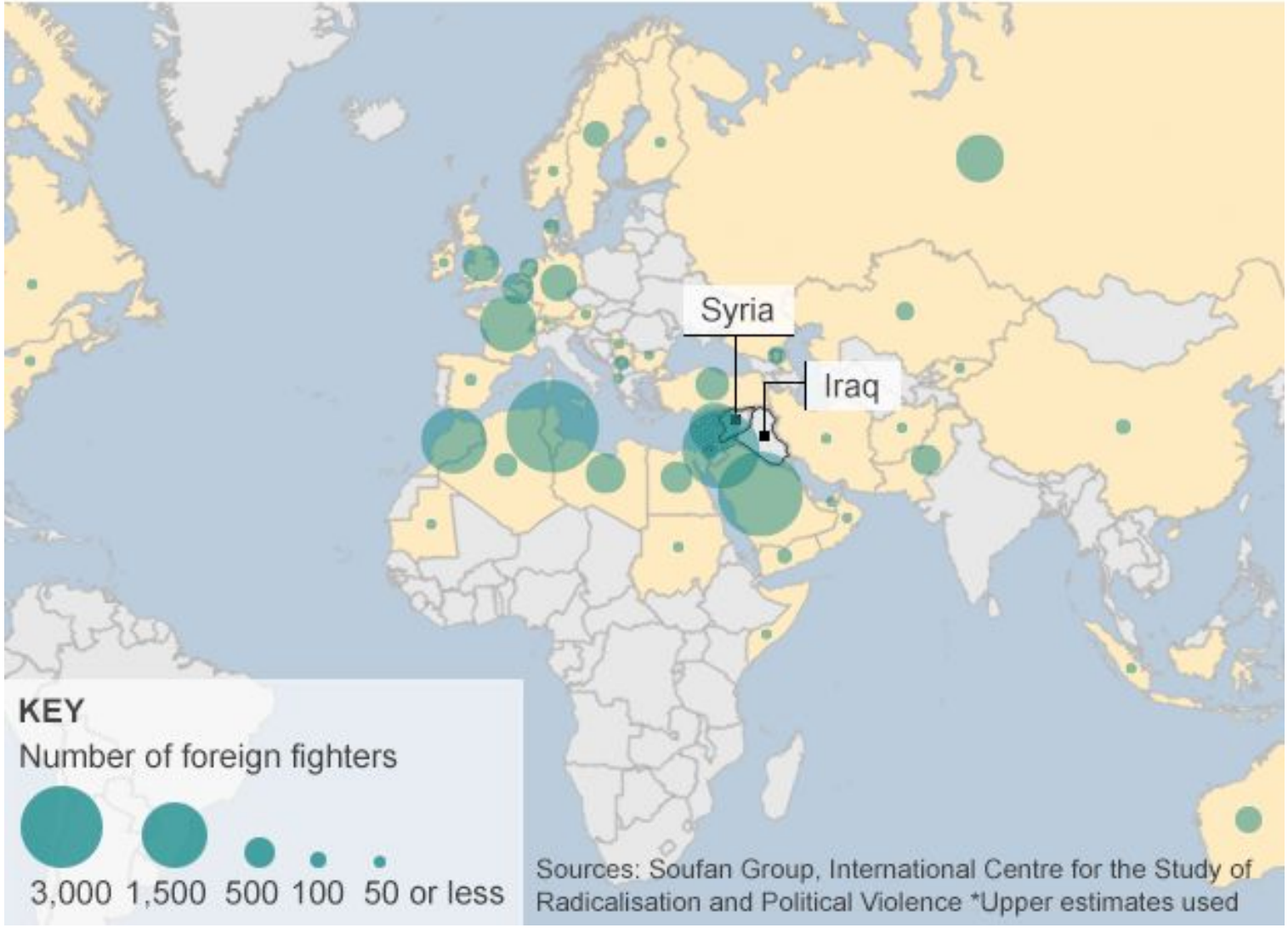


1135年の近東
第１次・第２次十字軍の間
（十字軍時代　1095−1270年）

BBC　２０１５年１月５日　Syria: Mapping the Conflict より
http://www.bbc.com/news/world-middle-east-22798391

シリアとイラクの外国人戦闘員の出身地・・・
「イスラム国」こそ十字軍？

Origin of foreign fighters in Syria and Iraq



http://www.bbc.com/news/world-middle-east-30928114　BBC 2015年1月22日

9/11 George Bush - This Crusade Is Gonna Take A While (Sept 17 2001)

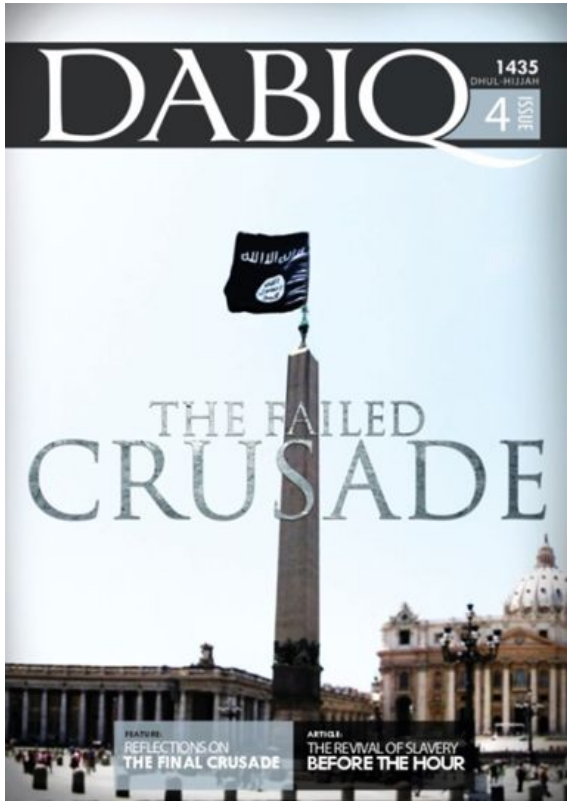
「この十字軍はちょっと時間がかかるだろう」

2001年9月17日

http://www.youtube.com/watch?v=7TRVcnX8Vsw

「(エジプトの)さらに東の方では、アメリカはある集団に兵站・外交両面の支持を与えていた。その集団は、自分たちがスンニー派十字軍としてシリアで戦うことを自覚していた。こうした協力関係には、この地域における石油・安全保障・宗派主義的政策上のパートナーたちが加わっていた。『自由シリア軍』には保守的ジハード主義者のスンニー派イスラーム主義者が含まれているが、これを資金面で支えているのが主にカタルで、トルコは反政府派に居場所を提供して武器の輸送を支援している。」
2013年7月2日 Reem Abou-El-Fadl "Sectarianism and Counter-Revolution in Egypt: Not a Family Affair"

「わかるか？これは十字軍だよ。連中がシリアを目茶目茶にしようとしているんだ」
2013年9月　ダマスクス政権側支配地域在住のキリスト教徒友人との国際電話



イスラム国オンライン月刊誌 『ダービク』第4号表紙
（バチカンのサンピエトロ寺院前広場の合成写真）

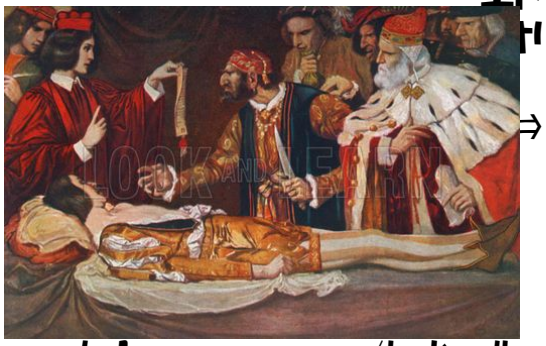
「失敗した十字軍」

2014年10月

「・・日本は自らの意志でこの（イスラム国に対する）十字軍に参入した・・」

2015年1月20日

「ヴェニスの商人」
強欲で好色、残酷なユダヤ人
＝ 東方の人々



http://s3-eu-west-1.amazonaws.com/lookandlearn-preview/N/N846/N846896.jpg

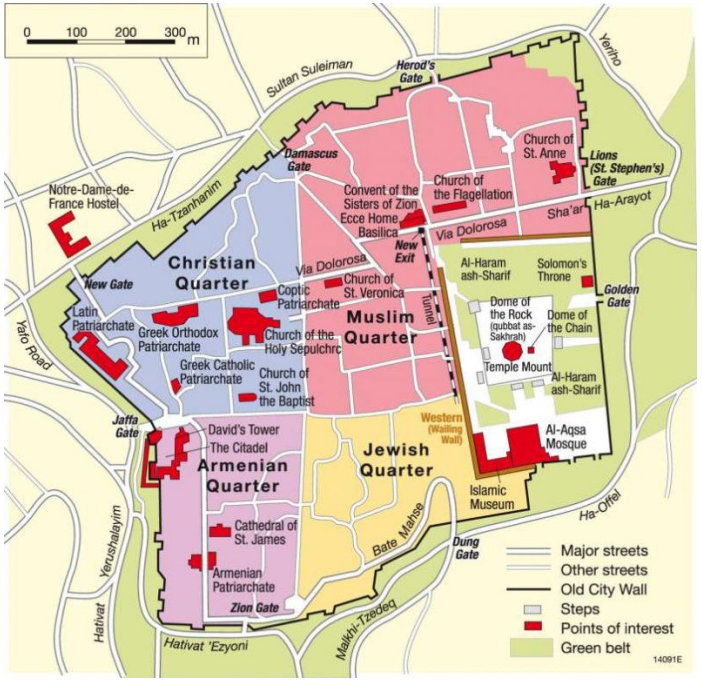
十字軍・・・ヨーロッパ社会にとっての「東方」に対する遠征

身近な「東方の他者」としての「ユダヤ人」に対する差別・敵対
「ユダヤ人」の先に脅威としての「イスラーム教徒」を意識

エドワード・サイード『オリエンタリズム』は近代西欧の「東方」
（オリエント）に対する政治的・文化的攻撃性を論じたもの

⇒ 攻めてこられた「東方」の側の人々
イスラーム教徒もキリスト教徒もユダヤ教徒も
同じ都市のなか（町内）で共存・共生してきた存在

エルサレム旧市街



千種区本山町愛知学院大学周辺